

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(039号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年04月01日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年04月01日
Bar RyN	2004年04月01日
買い物百般	2004年04月01日
エクスカーション	2004年04月01日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身近雑記 *

「春の嵐」の巻 2004年4月1日 更新

前回のアップロードの翌日・金曜日の未明から月曜日の夜まで、土砂降りの雨が断続していました。土砂降りと言いましたが、とてもとてもハンパな降り方ではなくウチの前のゆるい坂道もまるで急流のように水が流れていました。ガラス戸の外の
スティール・シャッターにあたる雨・風の音で何度も目がさめたほどでした。

私達は降ってれば出なきゃいいやとノンキに構えていればいいのですがどんなに雨が降ろうが、風が吹こうが行くべきところへ行かなきゃならんヒトは大変だったと思います。マラガ市をはさんで私達の町とは反対、市の東側に、リンコン・デ・ラ・ビクトリアという町があります。そこでは、普段はちよろちよろとしか流れていない小さな川が氾濫して大洪水となり、多きな被害が出てテレビの全国版ニュースで何度も報道されていました。南が雨なら北は例によって大雪で、これまた交通事故多発で多くのニュースが流れていました。今日4月1日も寒冷前線通過で雨になっています。

日本の春嵐は、台湾坊主と呼ばれる低気圧で、台湾付近で発生して急速に発達しながら南岸沿いに早いスピードで進んでくるものです。スピードが早いのが一番の特徴でこのため対処が遅れて被害が大きくなることがありますね。スペインの今度の春の嵐は極めて遅い、遅すぎるスピードで南岸をなめて行ったもので降り始めから降り終わり迄マル四日。しかも南はもうすっかり春の陽気になっていたため前線の南北の温度差が大きく、それが記録的な降雨量の原因になったのだと思います。

雷が激しかったのも温度差が大きかったためでしょう。アチコチで道路の被害も出ているので来週から始まるセマナ・サンタ(聖週間)の行事にも影響が出るのではないかと心配しているようです。この時期に道路に雪が積もったり洪水で決壊したりというのは今までにない事のように、このこと一つをとっても地球全体がオカシクなりつつあるのは間違いない事実ではないでしょうか。火星にもかつて水があったらしいといっているようですが、地球もやがては「かつて」ということになるのでは・・・？



上は我がアパルタメントの案内標識。こんなのが周囲2キロぐらいまでに何箇所か出ています。この標識ではグレードは鍵一つのまま、修正してありません。このアパルタメントが出来た頃、ここはこの辺では大きいものの一つだったんでしょうね。ほかのホテルやアパルタメントが一からげなのにここの標識だけ独立です。

新しいタルヘタが出たら、いずれどこかへ引っ越したいのですが、それが実現すればこの標識も懐かしいものになるのでしょうか。引越し先は今のところカディス七分、マラガ三分と漠然と考えていますが、さて、どうなることやら。

28日の日曜日から早くも夏時間となりました。28日02時を03時にしました。多分この時間帯が一番日常生活に影響が少ないと考えてのことでしょう。船では東西方向に移動するときは毎日1時間早めたり遅らせたりしました。飛行機旅行の時に経験する8時間とか10時間という大きなものではありませんが、少しずつでも毎日となると結構コタエます。体内時計なんかもうめちゃくちゃです。船では一日二回短時間睡眠、遅寝早起き昼寝が普通でしたから何とかなっただけです。Nは夏時間で一時間早くなったので寝つきが悪いとコボしていますが、その分朝寝するんだからトータルは同じ。只今、夜明けは8時、日暮れは21時、日本との時差7時間。***

* B a r R y N *

「バルの小道具」の巻 2004年4月1日 更新



ご存知、ソムリエ・ナイフ、スペイン語ではなんて言うのか知りません。ナイフはクチーヨ **cuchillo**、ソムリエはボデゲーロ **bodeguero** だから、クチーヨ・デ・ボデゲーロとでもいうんでしょうか？ 「デ」はいらないかもしれないし外に一語であらわす言葉があるかもしれない、でもこう言っても十分通じると思います。最近、どうもこの、通ジリヤイヤ式の思考法におちいることが多くていけません。相変わらず、二人共辞書を引く回数は年のワリには多いと思いますが、何しろ引くそばから忘れていくので効率の悪い事おびたしい。三つ四つなら覚えられるだろうと、メモもとらずに続けて単語を調べて、サテと文章に向き直った時には、初めに引いた一つ二つは忘れて又引きなおしです。

自分で使った事はなくても、ソムリエ・ナイフのほうは皆さん知ってますね。手前の丸いもの、コレ、なんだと思います？ 勿論ご存知のかたも多いと思いますが、ワイン・ボトルの封のアルミ・フォイルを切る道具です。下側にボトルの口が嵌るクボミがあって、青いボタンを押すとくぼみに向かって三方から刃が出ます。ボトルに被せボタンを押してグルッと回せば口の部分5ミリぐらいアルミ箔が切り取れるのです。



(左は一枚目の写真のもの、右は百均)

黒いグリップ(ホントはダーク・グリーン)のものは何年か前の誕生日に娘がプレゼントしてくれたもの。コレでかれこれもう500本はあけたと思います。フォイル・カッターの方は「Too much」のJサンからの去年の誕生日のプレゼントです。

右のステンレス製は百均ショップで正真正銘100円で買ったもの。唯一、自分で買ったのは安物とは情けないですが、コレもじつによく働きました。100円という値段は何かの間違いじゃないかと思うほどよく出来ています。そして何かユーモラスな形でしょう？ 不思議な事にドコ製とも印がないんです。使い勝手の点ではやっぱり断然左、グリップの曲がり具合と断面の丸さが梃子にするとき実に具合が宜しい。

たかがコルクを抜くだけですが、失敗せず綺麗に抜くにはちょっとしたコツがいります。だから、失敗なく上手に抜くための、いろんな形の道具が有りますね。

以前、よく使っていたのは、どう言ったらいいか、コルクスクリューを揉みこんでゆくと二本のレバーが両側に跳ね上がってくるタイプ。コレはあまり失敗なく使えるのではないかと思います。スクリューをきちんとコルクの真中に刺して二本のレバーをユックリ押し下げれば苦労なくコルクが抜けてきます。

コルクに太い注射針のようなものをさして、ポンプで瓶内に空気を送り込んで内圧でコルクを押し上げるというアイデア商品もあります、コレは失敗しないでしょうね。そのかわり上手に行ったという満足感もない。なんとと言ってもソムリエ・ナイフがお勧め。ビーノをやっつける前の儀式としてはこれを使ってコルクを抜くのが一番。最後に「ポン」といい音を出すにはこの道具に限ります。快心の音を立てて綺麗にコルクが抜けると安いビーノも一味旨くなるような気がします。***

* 買い物百般 *

「ファルマシア」の巻 2004年4月1日 更新

farmacia、英語の pharmacy と同じで調剤薬局の事です。調剤だけでなく一般の市販薬も売っています。というより医薬品はここにしか売っていません。

Rは極端な病院嫌いですし、Nは比較的？丈夫なタチですからここではまだ健康保険は役に立っていません。日本を出るとき知り合いのお医者サマに処方してもらった何種類かの薬と市販の風邪薬などを持参しましたが、そろそろ底をついてきました。

この一年半の間に風邪ひきはRが二回、Nが一回、二人揃っての食中り(貝で中った)が一回、Nの足首捻挫、このくらいが記憶に残るところです。ここはとても乾燥しているので喉をいためやすいし、風邪もひきやすいと思います。風邪は万病の・・・と言いますから引きこんでしまわないうちに、早め早めに風邪薬をのんで予防しています。そのためか、日本から持ってきた薬で風邪薬が一番早くなくなりました。

医療機関があまり充実していない代わりに、薬局の数はかなり多いと思います。スペインの人たちはあまり病院には行かず、大抵の事は薬局ですませってしまうような感じですか。医院も病院も想像するだけで行く気にもなれません。一般商店の客捌きを見るまでもなく能率よく診療が進むとは到底思えません。薬局でさえいつ覗いてもカウンターの前は人がごった返しています。そうそう、ここは薬局も全て対面販売で極めて能率が悪いんです。マツモトキヨシのような店はありません。

私達はまだ病院に行った事がないのでよくわかりませんが、ここではあまり医療機関が整備されているとは思えません。医院はアチコチで見かけるし大病院もあり、テレビ・ニュースなどを見ている限り医療技術がそう遅れているわけではなさそうですが日本と決定的に違うのは中程度の病院を見かけないことです。日本の地方都市の市民病院みたいなものや、都市部の私立総合病院みたいなものを見たことがありません。

医院というのは所詮大病院への紹介機関であるようで、チョッと難しい病気には太刀打ちできないんじゃないでしょうか。それは日本でも同じですね。



上はこの一年半で買った市販薬のすべて。手前左から、総合感冒薬の錠剤、その右、喉の痛み止めトローチ、その奥、水に溶かして呑む風邪薬、その左、打ち身捻挫用のチューブ入り軟膏、袋は絵の通りハーブ・キャンデー。そして最後の小さい箱はRの鼻炎用、これはユーカリの油だそうで、2～3滴をティッシュに含ませてクンクン嗅ぐとグスグスしていた鼻水もぴたりと止まる(ヨウナ気がする)すぐれものでイギリス製。「ヤク」と呼んでいます。このうち三種の経口薬にはいずれも **sin receta médica** =処方箋不要と印刷してあります。そうでなくてもここにあるモノ全ては処方箋不要のものばかりの筈ですから、マツキヨのような売り方をすれば買うほうも買いやすいし、売るほうも能率よく捌けるとおもいますが、薬局は全て対面販売です。何か法律の規制でもあるのかもしれませんが。

これらの薬を買いに行った時、他の客の売り買いの様子を見ていると、どうやら客は夫々の症状を訴えて、薬局のオバサン（全部が薬剤師の免許があるのかどうか？）が適当に市販薬を見繕っているようです。医師の処方箋ナシで売れる薬を処方するわけです。ここでも長々と質問、延々と説明です。後ろの客も気長に待っています。そのかわり自分の番が来たら心行くまで聞こうと思っているのか？ どうやらマツキヨ式売り方がいいという人はいないんでしょうね。Rのようにヒトにもものを聞くのが嫌いな人間、辞書を持って行ってでも自分で調べた方がイイ、という人間は少ないでしょう。それにしても薬局のオバサンが皆ややエラそうにしているのは気になるところです。ヒトにモノを聞かれ続けるとそうになってしまうのかな？***

エクスカーション

「マエストロを探す」の巻 2004年4月1日 更新

(タイトル探しの遠足・その二)

maestro です。西和では作曲家や演奏家の名前の前につける敬称、となっています。作曲家という普通名詞としてはコンポジットール **compositor** というのがありますが、例えば **Maestro Tarrega** マエストロ・タレガ(=アルハンブラの思い出の作曲者)という風に固有名詞の一部みたいに使うようです。

マエストロという単語にはこの他普通名詞としての意味が沢山あります。先生・師匠・大芸術家・巨匠・名人・親方・職長・儀典長などなど。

Rの世界ではボースン(日本語としては甲板長、古くは水夫長)のことをフィリピン人クルーはこう呼んでいました。職名としてはボースンなのですが呼びかけとしてはマエストロ!です。こう呼びかけるほうがにこやかな返事が返って来たような気がします。敬意がこもった呼びかけ、なんでしょうね。

サテ、通りの名前を示すタイトルの銘板の話、第二弾です。通りの名前は人名・地名のほかありとあらゆる名詞が使われています。今回のテーマは作曲家です。

前回はピントール・画家でしたが、画家の名を冠した通りは実に多くあって一度にはお話ししきれないほどでした。それほど多くの偉大な画家がいたということだと思います。ところが、作曲家・演奏家となると、コレ意外に少ないんです。特にスペイン人の、となると探すのに苦労するほど少ないんです。例えば前回触れた「鳥の歌」のパブロ・カザルスなんかあってもヨサソウなのに、この界隈の町にはありません。

この国はやはり絵画の国なのでしょうか。それとも作曲家や演奏家の名前がついた通りも数多くあるのに、私達が肝心のその人物の名前を知らないだけか?

一方、地図にも大いに問題アリで、索引にはその名前があるのに図にはのっていないかあったり、索引にも図にも出ているので、ヨシと勇んで出かけると道路そのものがなくなっていたり、かなりデタラメです。



トップ・バッターはずばりマエストロ・タレガ、**Francisco Tarrega** フランシスコ・タレガです。あのギターの名曲「アルハンブラの思い出」の作曲者です。この曲についてはグラナダ探訪記でも触れましたが、Rは長い間この曲には特別の思い出がありました。こんな風にギターを弾いてみたいと思ったこともありましたが、譜面をみて、コラアカンと諦めました。大体どの楽器でもコードを譜面であらわせれば複雑なものになってしまうものかもしれませんが、ギター曲の場合特にそう見えてしまいます。ここが才能の分かれ目でしょうね。

続いて、**Joaquin Rodrigo** ホアキン・ロドリゴ。 **Concierto de Aranjuez** アランフェス協奏曲で有名ですね。この名前は知らなくても聞けばアアコレかと大方のヒトの耳に残っているはずです。なんのかは忘れましたが映画のラスト・シーンに使われたこともあったと思います。友人の一人はこの曲がいたく気に入ったと言っていますが、ほんとにいい曲です。但し心に染みる曲の多くがそうであるように、やや暗く寂しい調子を帯びていますから、メイット時にはお勧めできません。インインメツメツになってしまうたら大変。

もう一人、有名なギター奏者、アンドレス・セゴビア **Andrés Segovia** の名前をこの界限三つの町の地図で見つけたのですが、いずれも現場の様子は既に変ってしまい、とうとう見つけられませんでした。こういうことがほんとに多いんです。単に地図が不正確というだけでなく、通りの名前なんて簡単に変えてしまうようでもあるし、今までちゃんとした公道だったところでも、住宅になってしまっていたり、体育館なんか出来ちゃったり、ということは何度も経験します。コレはこの辺の住宅開発の物凄さを物語るものでもあります。



この五枚に付いては説明不要ですね。巨匠中の巨匠ばかり。スペインの人達が、実際にこういう外国の音楽家のことをも、マエストロという敬称をつけて呼ぶのかどうかは知りません。マエストロは英語では **master** マスター、ドイツ語では **meister** マイスターに相当するはずですが、手元の英和では作曲家につける敬称という意味合いの事は読み取れません。逆に英語でマスターは船長の事でもありますが、西和ではマエストロに船長の意味があるとは書いてありません。

この五枚の銘板はほかの通りのようなタイル板ではありませんね。この写真を撮った所は「超高級」分譲住宅地内で、この銘板は市がつけたものではなくこの住宅地のディベロッパーがサービスで付けたものらしいんです。この写真を撮っている間塀の中からドスの利いた大型犬の吼え声に追われて閉口しました。目の前で或るお屋敷の門がゆっくり開いて、静々と出てきたのはロールス・ロイスでした。ヒュー！***
